大淀川における川と人とのつながりの再生に向けた取り組みについて

川上　幸陽[1]・関　信彰[1]

[1]宮崎河川国道事務所　調査第一課　（〒880-8523 宮崎県宮崎市大工2-39）

宮崎市街部に位置する大淀川では、良好な川づくりのため官民一体となって様々な取り組みが実施されている．その中で，河道掘削に伴う「治水」と重要種などが多く現存するワンドや水際線の「環境保全」の両立に向けた取り組み、地域が主体となった水辺の賑わい創出への取り組み及びミズベリング宮崎の一環として実施している社会実験イベントなど大淀川下流市街部における「川」と「人」とのつながりの再生に向けた取り組みについて取りまとめたものである．

キーワード　治水，環境保全，水辺の賑わい，つながり，再生

1. はじめに

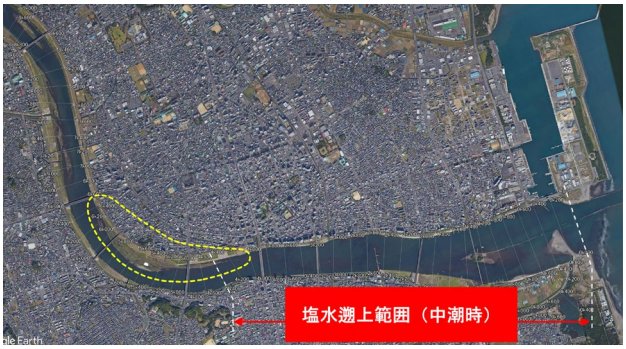
大淀川は，宮崎県の南西部に位置し，鹿児島，熊本，宮崎の三県にまたがり，社会，経済，文化の基盤をなしているとともに，自然環境や景観にも優れている，流域面積2,230km2（九州第2位），幹川流路延長107km（九州第4位）に及ぶ九州屈指の河川である．（図－１）

図－１　位置図

2. 宮崎市街部における大淀川の河川環境及び利活用状況

(1) 大淀川下流の河川環境

宮崎市街部を流れる大淀川下流域は，河口から約9km付近までが感潮区間となっている．顕著な塩水遡上は約4km付近となっている．大淀川左岸4k200～6k200の湾曲部内岸側には砂州が形成され，ワンドやたまりがあり，重要種等が生息・生育している貴重な湿地環境となっているほか，汽水性・回遊性・淡水性の種が入り混じる，多種多様な環境が存在する重要な場所となっている．（図－２）令和元年度から令和2年度にかけて現地調査した結果、24種の重要種（環境省や宮崎県が作成しているレッドリスト）を確認．既往調査も含め当該地区では30種の重要種を含む242種の生物が確認されている．（図－３）



図－２　大淀川下流域

図－３　大淀川下流域で確認された重要種

(2)大淀川下流の利活用状況

大淀川下流域は宮崎県の県庁所在地である宮崎市の市街部を流れる川として，河川公園，樹木，水辺が創り出す都市景観を有するとともに，河川敷に散策路やせせらぎ水路が整備され開放的な親水空間となっており，日常的に散歩やジョギング等で多くの人々に利用されている．さらには様々なイベントが行われたり，周辺の学校の部活動（カヌー）で利用されるなど，地域の憩いの場となっている．

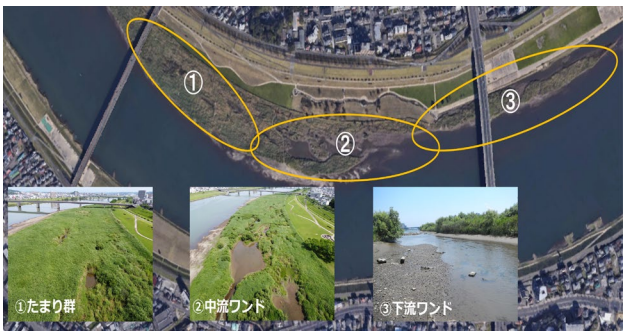
3.「治水」と「環境保全」の両立

(1) 宮崎市街部河道掘削事業

現在，大淀川では大淀川水系河川整備計画に基づき，水系全体の受け皿でもある大淀川下流域において，河道掘削事業を実施している．

(2) 河道掘削における環境への配慮

河道掘削にあたっては，当該地区が多種多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を有していることから，十分な環境配慮のもと施工を行うこととしている．保全すべき重要な環境として，ワンドやたまり，水辺のエコトーン、特に水際線の湿地や浅水域の環境を保全することとしている．施工にあたっては環境配慮の基本方針を定め，①河道掘削は平水位以下を基本とする，②掘削形状は水際線に凹凸を付け，水辺エコトーンとなる干潟や浅水域が再生されるよう配慮する，③掘削により縮小する中流ワンドの代償措置として上流ワンドを新設する，④掘削範囲に生育生息する重要種等の移動や再生に配慮し，工事は工期・工区を分け段階的施工とする，などを留意事項としている．
（図－４）



図－４　大淀川下流域の環境

4.地域が主体となった環境保全活動

(1) 河川協力団体によるタコノアシ保全活動

治水事業による河道掘削予定箇所のワンドには，環境省・宮崎県の準絶滅危惧種に指定されている宮崎県内最大級のタコノアシ群落が経年的に維持されている（写真－１）．河川協力団体であるNPO法人大淀川流域ネットワークは，「タコノアシ」の保全活動を平成27年から行っている．活動内容としては，掘削予定の場所に群生しているタコノアシを安全な場所に移植し，競争種となるヨシやオギなどの伐採や繁茂抑制を行っている．タコノアシは子どもたちでも容易に移植を行うことができ，また秋に赤く色づく姿は子どもたちに印象を与え，シンボル性もあることから，環境学習や自然体験学習の素材としては最適なものとなっている．この活動は，地域の親子や学生を募ることで将来を担っていく人たちに地域の特性や身近な河川環境について気づきを与え，環境保全のことを考えるきっかけとなっている．昨年は約160名，今年は約200名が参加するなど，地域の環境保全に対する関心の高さが分かる．この活動で，川に人が集うことで「川」と「人」とのつながりが生まれることにもつながっている．（写真－２）

写真－１　タコノアシ群落

写真－２　タコノアシ保全活動

(2)　タコノアシ保全活動の課題

タコノアシ保全活動を行っていくにあたっては課題がある．保全活動のフィールドはぬかるんでおり，足場が悪いため，小川を渡るための仮橋や作業道としての木道設置が必要である．また，タコノアシの競争種となるヨシやオギなどの繁茂抑制につながる木道の設置にあたっては，多くの資材が必要であるが，予算が限られている．保全活動を行う上での作業性に課題がある．

(3)　全国の先駆けとなる河川事業と道路事業の連携

宮崎では国道沿いにワシントニアパームが植えられており，南国ムードを彷彿させる風景は南国宮崎のシンボル的な存在となっている．現在，道路事業では，国道 10 号や国道 220 号の中央分離帯に植えているワシントニアパームについて，台風などの風が強い日には，落下した枯れ枝で走行車のフロントガラスを損傷するなどの管理瑕疵が発生している．そのため安全管理上の問題で平成 29 年度から植え替えを実施している．そこで発生したワシントニアパームの伐採材の有効的な活用を検討したが，ワシントニアパームは，一般的な木材とは異なり，繊維質で，切断面にとげが発生し，加工するのに手間がかかることから，活用方法が見いだせない状況にあった．タコノアシ保全活動で多くの資材を必要としていたこともあり，植え替えで発生した伐採材を活用する方策を宮崎河川国道事務所と河川協力団体協同で検討し，令和３年度から実証実験を開始している．活用方法として，令和３年度はタコノアシ移植先のエリアの澪筋を渡る仮橋として活用．令和４年度は移植をする際の足場とする木道として活用することとしている．木道を設置することで，日光を妨げ競争種のヨシ，オギ等が繁茂しないようにする効果もある．道路事業の課題と河川活動のニーズがマッチした好事例となる取り組みであると考える．（図－５）

図－５　ワシントニアパームのサイクル

5.　地域が主体となった水辺の賑わい創出への取り組み

(1) 水辺のテーブル

毎年夏休みの時期に，宮崎河川国道事務所，NPO法人大淀川流域ネットワーク，宮崎市が協働で，市民の方に普段の生活ではなかなか味わえない，水辺の涼を感じてもらい，水辺の利用促進を図ることを目的とした新しい水辺の活用を創造していくプロジェクト「ミズベリング宮崎」の一環である「水辺のテーブル」の社会実験に取り組んでいる．ミズベリングには，「水辺+RING（輪）」，「水辺+R（リノベーション）+ING（進行形）」の造語．水辺に興味を持つ市民や企業、行政が三位一体となり持続可能な水辺の未来に向けて改革していく，という意味が込められている．7月～8月の期間中，大淀川市民緑地のせせらぎ水路付近（4k100～4k500）でガーデンテーブル・チェア，パラソルなどを設置している他，期間中に6回のイベントを実施している．水辺のテーブルは，週末は家族連れで賑わうほか，ジョギングや散歩の休憩，デートなどに有効活用されている他，イベントとしては，ワンドを探索し，絶滅危惧種を見つける．ウナギの放流とつかみ取りなどの内容で，地域の親子を募ることで地域の方々に環境保全についての関心を高めたり，水辺で楽しんでもらうことで，「川」と「人」とのつながりを生み出している．（写真－３）（写真－４）

写真－３　水辺のテーブル風景

写真－４　ウナギの放流の様子

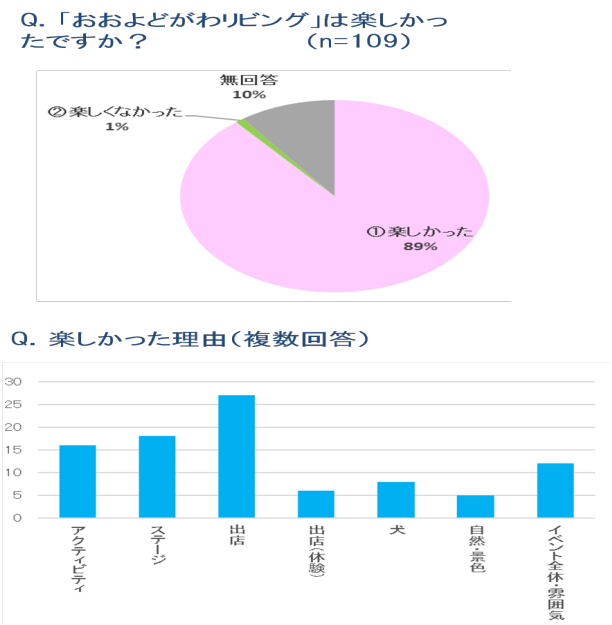
(2) 大淀川リビング

現在，河川敷などの河川空間の利用については，都市及び地域の再生等に資するため河川敷地占用許可準則の一部が改正され，全国的に河川空間のオープン化を図り，水辺の新しい活用方法を見いだそうとする気運が高まっている．大淀川下流域では「水辺のテーブル」と同様、「ミズベリング宮崎」の一環として，令和元年から「大淀川リビング」の社会実験に取り組んでおり，大淀川河川敷などの水辺の魅力的な環境を活かし，再びかつての大淀川の賑わいを取り戻そうとする活動が始まっている．ラジオパーソナリティ，商工・観光関係者，市民団体やNPO法人，行政職員らで構成されるワークショップを令和元年に開催し，水辺の賑わいを創出するためのアイデアについて，有志が集まり意見交換を行った．ワークショップを踏まえ，ワークショップの参加者を構成員とした「大淀川リビング実行委員会」が主催となった社会実験を実施し，大淀川の利活用の可能性を探っているところ．

令和2年度はコロナ禍の影響もあり開催されなかったが，令和3年度は10月と11月に開催し，延べ3,500人が来場し，それぞれ自由な発想で楽しむ様子が見られた．今年度は，5月15日（日）にリバーサイドテーブル，カヌーなどの水辺のアクティビティ，飲食，物販等による大淀川リビングを開催．宮崎市内外から約4,500人が来場し，大いに賑わいをみせた．併せて，今後の利活用の実現性，課題，ニーズの把握等を目的に，　参加者と出店者を対象としたアンケートを実施（図－６）．これまで３回実施しているが今後さらに試行錯誤を重ね，河川敷でイベント開催や営利活動が可能となる都市地域再生等利用区域の指定を目指して地域が一体となって取り組んでいる．（写真－５）（写真－６）

写真－５　大淀川リビング会場

写真－６　大淀川リビング風景



図－６　大淀川リビングアンケート結果

6. 「川」と「人」とのつながりの再生に向けて（まとめ）

宮崎市街部を流れ，良好な自然環境を有し，高いポテンシャルを持つ大淀川下流域では，そのポテンシャルを最大限に活かし，川と人とのつながりの再生に向けて，川の環境保全活動や社会実験など様々な取り組みが行われている．地域が主体となった環境保全活動は，自然体験学習として地域の子どもたちを募り，大人も子どもたちも一緒になって，川の楽しさや魅力に気付き，身近な場所で希少植物の絶滅が危惧されていることを認識し，環境保全の大切さについて学ぶ良い機会であり，身近な河川についての関心を高めることで，「川」と「人」とのつながりが生まれている．

また，ミズベリング宮崎の一環として実施されている社会実験イベントの取り組みは，住民，団体などの地域や企業，行政などがコミュニケーションを取り，想いや活動を共有する多種多様な連携によって，より良好な河川空間が創出されている．

環境保全活動や社会実験イベントなどを通して，普段経験・体験できない出来事に触れることで，身近にある大淀川の知らない一面を知り，人々が河川に興味を持つことにつながると考える．川に人が集い，水辺を眺め，楽しみ，それぞれの想い，やり方で河川に親しむ．河川が持つ限りない可能性をさらに追求し，多種多様な生物が共生し親しみがある河川空間の保全と創出に取り組んでいきたい．大淀川が宮崎のシンボル，人々の心のよりどころ，原風景となるように，今後も地域とともに「川」と「人」とのつながりの再生に向けて，より地域に根ざした関係を築き地域に活力を与える取り組みを続けていく．

参考文献

1). 環境省レッドリスト 2020
(https://www.env.go.jp/press/107905.html)

2). 宮崎県レッドリスト（2015 年度改訂版）
(https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/page00193.html)

2). ミズベリング
(https://mizbering.jp)